

Episode 3

Watching a
revue at the
International
Theater until
this late hour!?

All by yourself!?
You're still in
elementary school!

Can you imagine how
much your mother must
be worried!?

It's alright,
dear.

But you even
asked the
police to search
for him!

I'm just glad Tsugu
got home safely...

Episode 3



Even while he
was being
fiercely scolded
by his father...

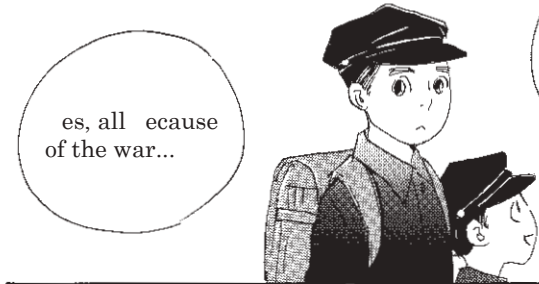
Tadatsugu's mind
was filled with
excitement from
the revue he had
just seen.



They say that the international Theater has been closed as well.

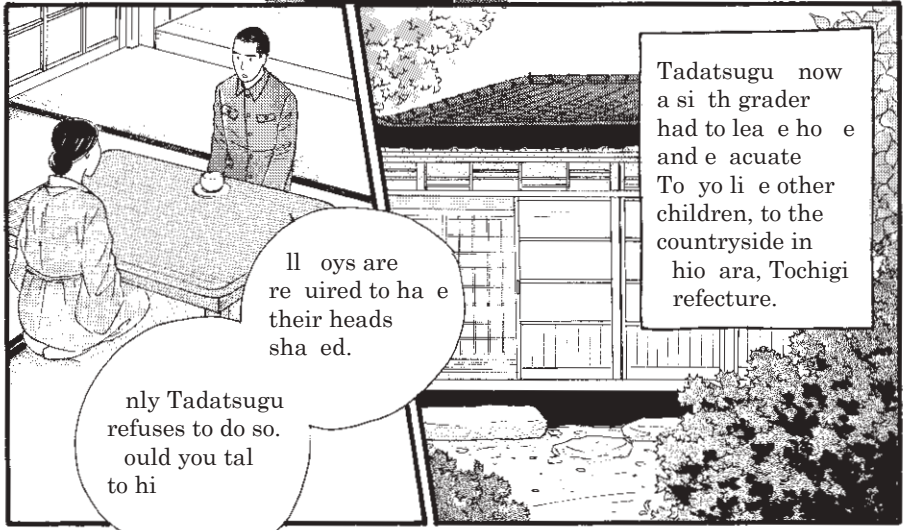
I heard it is now a factory for a long time.

The following year, in 1944, the war gradually escalated.



Yes, all because of the war...

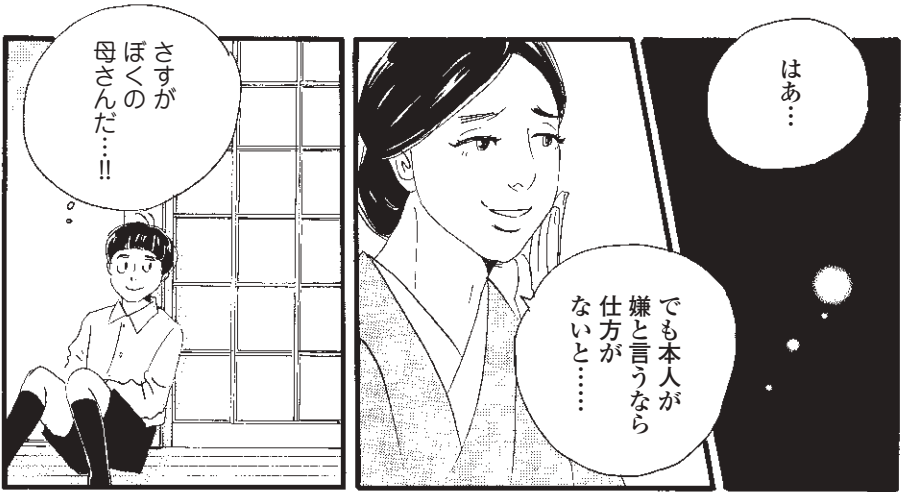
It's such a pity...



Tadatsugu now a sixth grader had to leave home and evacuate. To you and other children, to the countryside in Niigata, Tochigi refecture.

All boys are required to have their heads shaved.

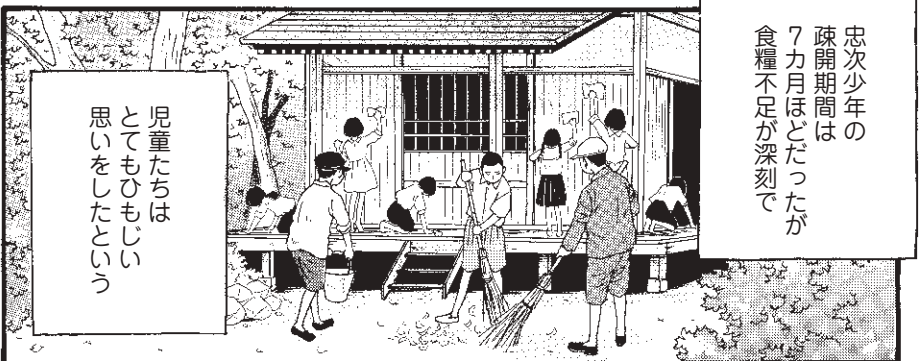
Only Tadatsugu refuses to do so. Could you talk to him?



さすが
ぼくの
母さんだ...!!

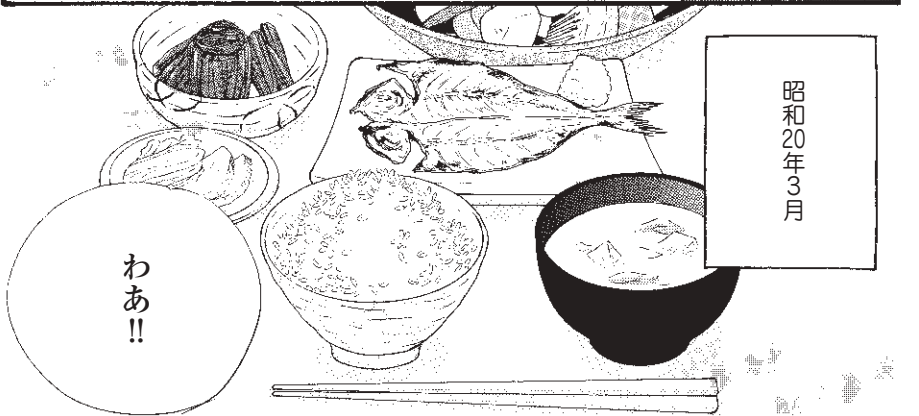
はあ...

でも本人が
嫌と言うなら
仕方が
ないと.....



児童たちは
とてももじい
思いをしたという

忠次少年の
疎開期間は
7カ月ほどだったが
食糧不足が深刻で



昭和20年3月

わあ!!

あせらず
よく噛んで
お食べ！

卒業式が
あるおかげで
6年生だけ早く
東京に帰れて
よかったね



お父さんが今
海軍の仕事
を
請け負って
いるから

よそよりは
いろんなもの
が
手に入るのよ

おなかが減って
道端の草や
山のドングリを
拾って食べた

お手玉の中の小豆を
こっそり食べてた
子だった

世の中は
ものすごく
不公平で理不尽だ
!!

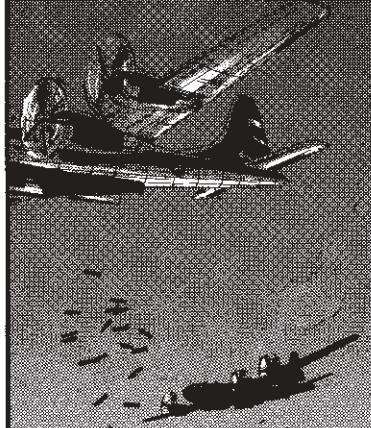
あの苦労と
ひもじさは
何だったんだ



3月10日
未明

ブオオオオオ

隣の家に
火がついたぞ！
このままじゃ
うちまで
焼けちまう！



約300機のB-29が
超低空飛行で
東京上空に襲来

東京の
3分の2を
焼き尽くした

もう間に合わないわ
早くここから
出ないと！





だめよ
ツグ
危ないわ



ぼく
助けを
呼んでくる



誰か助けてー！

火を消して
くださいー！

火を消すのを
手伝って
くださいー！！

なんで？

なんで誰も
出てきて
くれないの！？



バケツリレーの
練習を
あんなにみんな
やったのにー！！



誰かー！！

昭和20年8月
東京は焦土と化して
終戦を迎えた

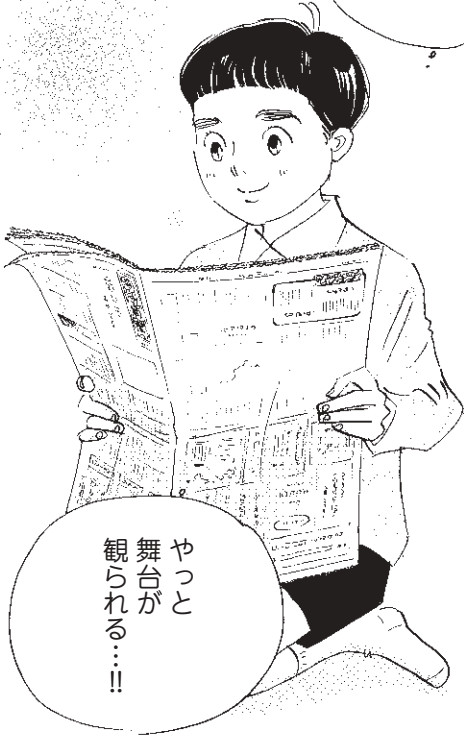
忠次少年の心には
大人や社会への
大きな不信だけが残った



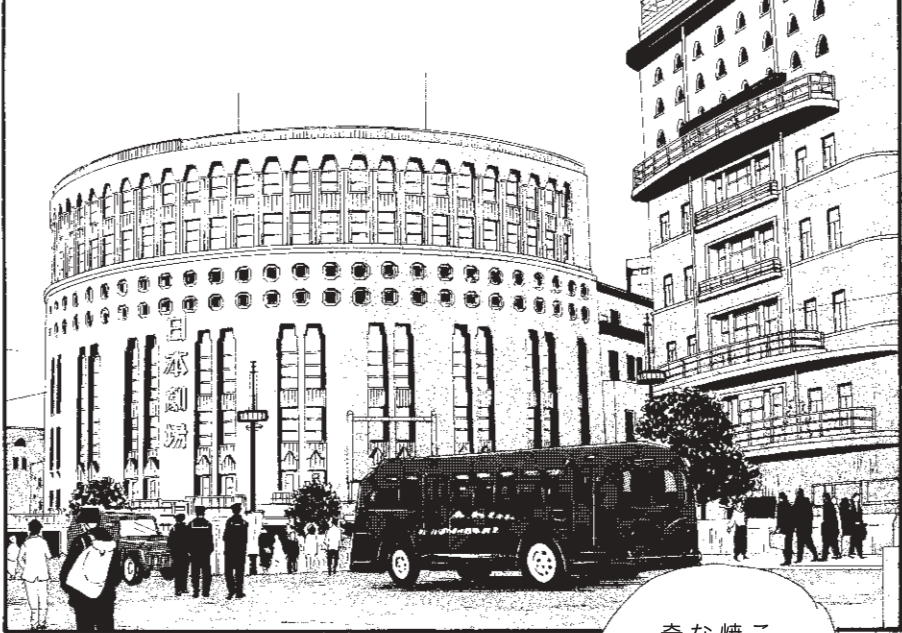


終戦から
3カ月

ああ
やっと…



やっと
舞台が
観られる…!!



ここが
焼け残った
なんて
奇跡だ！



神様
ありがとうございます



イツツ
ショータイム!!

わあ……!!!



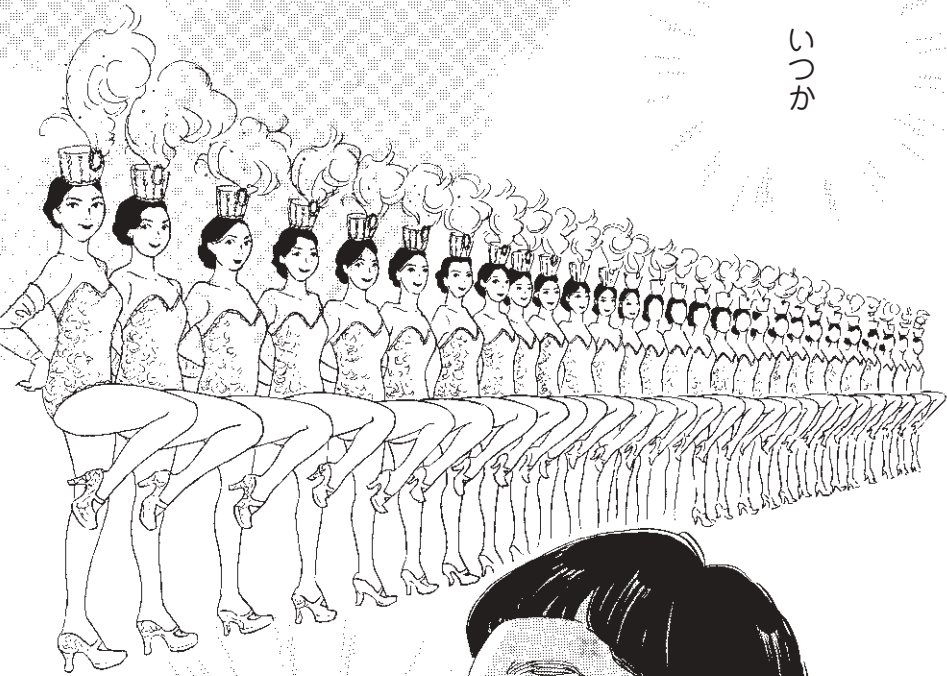
ううん
夢じゃない

まるで
夢を
見てる
みたい…

戦争は
本当に
終わったんだ

ああ
なんて
きれい…

いつか



いつかほくも
この素晴らしい
世界に
入りたい——!!



時は
移り――

なに!?

舞台の
仕事が
したい!?

ドリ
ツ

そんな
虚業を夢見て
どういうつもりだ
おまえ!!

まあ
あなた……!

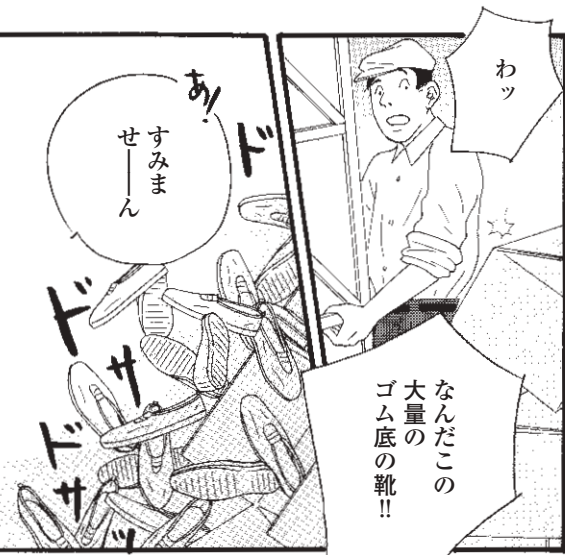
昔から
兄弟の中で
ツグはいちばん
心が繊細なのよ

芸術の道に
進むのが
この子にとって
いいことだと
思います

やっぱり
母さんは
ほくの味方だ

うむ……

忠次はもうすぐ
大学を卒業する



すみま
せん

わッ

なんだこの
大量の
ゴム底の靴!!



昭和30年

大学を
卒業した忠次は
舞台の製作会社に
就職した

